

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100427
法人名	株式会社 ことぶき
事業所名	グループホーム ゆうかの里
所在地	松山市北条辻922番地3
自己評価作成日	平成28年1月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年2月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設内での勉強会や外出支援に力を入れており、理念である【愛】を基に、人間愛を持って利用者一人ひとりがその人らしい生活が出来るよう取り組んでいる。又、8年目に入りワンステップ上がった施設にしていきたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関前には、パンジー等が咲くプランターを並べ、ベンチを置いている。食堂兼居間には食卓テーブルと壁際にソファを設置している。壁面には利用者の塗り絵作品を飾り、体験学習に来た中学生からの手紙を貼っていた。利用者は、自由に居室と行き来しており、食後は居室で横になる方や居間でテレビを見てつろぐ方の様子が見られた。調査訪問中には、居間から利用者や職員の歌声が聞こえてきた。気候の良い時期には、近くの公園や海岸まで散歩に出かけ、菊の咲く庭や野菜畑の様子を見たりしている。初詣は、鹿島神社等に出かけ、2月の愛媛マラソンは沿道で応援をした。文化の森公園の図書館へ本を借りに行くこともある。事業所の買い物に利用者を誘ったり、衣類等の個人の買い物希望は、衣料量販店等に付き添い支援している。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ゆうかの里

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 砂古 正子

評価完了日 平成28年 1月 28日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者会議および職員会議等で、「愛・笑顔・信頼」を合言葉に理念の共有、再確認を行い、理念に基づいた介護の実践を行っている。	
			(外部評価) 事業所開設時に、法人代表者がつくった法人理念「愛」と、事業所理念「他では受けられないその人らしさの介護サービスを目指します」等の3項目を、玄関や居間に掲示している。法人代表者は、職員会議時に、「住みよい、住みたい、住んで良かった」ホームを目指し「一人ひとりの人生の物語を大切にしたいケア」を実践してほしいと話している。管理者の交代を機に、理念の実現に向けて具体的に話し合ってみてはどうだろうか。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩先として近所の新開公園等を利用しており、近隣の方と挨拶を交わしている。中学校の福祉体験の受け入れや、地域の行事にも参加している。	
			(外部評価) 北条商工文化祭に出かけた際には飲食等もして楽しんだ。毎年、中学生の体験学習を受け入れており、昨秋には中学生10名の訪問があった。生徒は、利用者とふれ合いながら、ミキサー食を試食したり、車イスの操作を学んだ。秋祭りには神輿の訪問があり、利用者は駐車場に出て一緒に写真を撮る等した。この1～2年幼稚園との交流が途絶えており、管理者は「また声を掛けたい」と話していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学校の福祉体験の受け入れを行っており、子供たちに福祉・介護の理解や認識を学習してもらっている。また、運営推進会議の時に、利用者の状況等をお伝えし、事業所の状況等を区長さん、民生委員さん、包括支援センター、市役所等よりアドバイスを受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2か月に1回、運営推進会議を行い、地域の出席者にホームの状況や取り組んだ事等を伝え、その感想やアドバイスを活かしてサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 会議は、偶数月の第3金曜日と決めて開催しており、区長や民生委員、利用者代表1名等が参加している。ご家族は、代表で1名に案内しているが、都合により昨年は参加がなかった。会議は、利用者の状況や地域との交流、取り組み等を写真等、見てもらいながら報告して、意見を聞いている。民生委員からは、「地域に認められる事業所を目指し、地域との交流を大切にしてほしい」との希望があり、事業所からは「行事等、機会があればぜひ参加したい」と返答した。事業所には、現在、使用していないシルバーカーが2台あるため、地域の方に使用してもらいたいと考えており、会議で伝えたいと話していた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域の社会福祉協議会、包括支援センター、市役所介護保険課と密に連絡を取って協力して頂いている。また、運営推進会議にも参加して頂き、アドバイスを頂いている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター主催の勉強会は、1月は事業所が当番に当たり、「口腔ケア」のテーマで歯科医を招き、地区の他事業所の方達と勉強する機会を作った。生活保護受給者は、市の担当者にご本人の生活等の相談をしている。又、時には担当者の訪問もある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員会やカンファレンス等において「身体拘束はしない。」という方針で職員間で確認し合っており、日常生活の中で拘束の無い介護に努めている。玄関の施錠や各個人の部屋の施錠については、夜間の防犯対策として実施しているが、昼間は解放している。</p> <p>(外部評価) 内部研修時に、身体拘束の具体的な例を挙げて学んでいる。日中は玄関に施錠せず、利用者は玄関先まで自由に出入りしている。入居時、腕を組んで座ったままでコミュニケーションが困難だった方が、かかりつけ医と連携し減薬に取り組んだところ、ご自分でズボンの上げ下げや下膳等ができるようになり、コミュニケーションがとれるようになった事例がある。現在は、カラオケを楽しんだり、整容等の好みを表すようになったようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員間でニュースや研修会等での情報を共有して意識を高めている。また、時にはお互いに相談しあったりして虐待が見過ごされる事がないように注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度を利用されている利用者がおられる事もあり、職員も必要性を理解している。面会時に利用者の状況等をお伝えしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の時点で、利用者や家族と入居について話し合いを行い、契約書等で説明を行い理解や納得をして頂いている。契約後も疑問点や不安があれば、いつでも連絡をして頂く様に家族にお話しをしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見や苦情・不満がある場合は、直ちに職員間で話し合いを行い、出来る範囲内で運営に反映させている。 (外部評価) 月1回、利用者個々の担当職員がそれぞれに日々の状況を手紙で報告している。現在、月1回程度の面会があるご家族が数名あるが、他のご家族の訪問は少ない。ご家族から職員の「言葉遣い」について指摘があった際には、職員で話し合った。衣類等には、名前の記入を確認し、整理に努めている。	運営推進会議やイベント時に、ご家族に案内状を出してお誘いしたり、事業所からの情報発信を工夫する等、ご家族に事業所をもっと身近に感じてもらえるような取り組みに期待したい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議等で職員の意見を聞く機会を設け、検討した上で反映させている。また、カンファレンスにて利用者個々のケアについて職員が意見を出し合い、支援に反映させている。	
			(外部評価) 職員の入れ替わりがあり、現在、新人職員が多く、事業所は「内外の研修に積極的に参加する」ことを目標に挙げている。県在宅介護研修センターの研修プログラムを提示して費用面でも応援している。研修に参加した職員は、職員会議時に研修内容を報告している。管理者は、「介護の基礎をしっかりと覚えてほしい」と話していた。職員個々が知識や技術アップすることで、事業所のサービスの質向上を目指して欲しい。さらに、職員のチームワークを育てる取り組みをすすめてほしい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 随時職員からの相談を受け、職員・管理者から代表者へ、また代表者から管理者・職員へと話し合いを行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各研修会には積極的に参加して頂き、その内容を職員会議等で発表して頂いている。研修会受講者が他の職員に対して内容を伝えていく事で職員のレベルアップを図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域の勉強会等に参加しており、意見交換、情報交換などを行っている。運営推進会議にて他施設の方にも来て頂き、意見を伺う様になっている。他施設との交流を行い、サービスの質の向上を目指している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談があれば、利用予定者や家族の不安や要望等をお聞きして状況把握を行い、安心して入居して頂けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所当初は管理者やケアマネ、経験豊富な職員が対応に当たり、利用者や家族の不安や要望をお聞きしながら、安心して入所して頂けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所当初は、生活に慣れない不安があると思われるので、利用者のニーズ・性格・他利用者の関係を把握しながら介護を行うよう努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者全員が安心して不安の無い日々が過ごせる様、共同生活を通じて仲良く暮らせるように支援を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回利用者の担当者から家族宛に近況のメッセージをお伝えするようにしている。また、面会時にも家族への声かけを行い、利用者の情報交換を行う様に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の生活や状態をお聞きし、急に生活環境が変わらない様、今まで使用しておられた布団やコップ、写真等を持ってきて頂いたり、知人や友人等の来訪をお願いしたりしている。 (外部評価) 入居以前に利用していたデイサービスを継続して利用できるよう、職員が送迎して支援しているケースがある。妹さんが亡くなったことを新聞で知った利用者の希望で、妹さんの自宅まで職員が付き添ったようなケースがある。そのことがきっかけで、いとこの方が訪問してくれて、職員は「また来て下さい」と声をかけて関係が続けられるよう支援した。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)  共同生活を通して生活やレクリエーションを行う事で、利用者同士が仲良く生活できる様に職員が見守りを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)  事情があつて退所された後も、家族から様子や状況等の情報を知らせて頂き、家族から相談があつた時には出来る限りの対応を行う様にしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)  本人がどうしてほしいのか、何を望んでいるのか等、日々の関わりの中で現状を把握するようにし、日常の介護に取り入れている。  (外部評価)	
			身寄りがない利用者については、入居時に、ご本人から以前の暮らしぶり等をていねいに聞き取るようにしている。	さらに、個々の希望や要望、思い等の情報を集め、利用者本位の視点で支援を検討してほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)  入所時、本人や家族に今までの生い立ちや生活状況等をお聞きし、生活歴を把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)  利用者一人ひとりの状態を把握し、心身状態によって1日の過ごし方や1日の生活時間帯の行動把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	ケアマネージャーを中心に介護計画を作成しており、カンファレンスで職員間で話し合いを行い、検討を行う様になっている。利用者や家族等の意向があればそれを含めた介護計画を作成するようにしている。	
			(外部評価)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	ケアプランに準じた支援をするとともに、職員間においては申し送り等で情報を共有し、日々の変化を把握するように努めながら介護計画の見直しにつなげる様にしている。	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	個々の利用者の身体状況や生活状況によって、既存のサービスに捉われない様にして、柔軟な支援が出来る様に取組んでいる。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	歩いて行ける距離に新開公園があり、浜(海)も近い。車で少しの所に施設(文化の森)や図書館があり、時々利用されている。気分転換にもなり、楽しまれているようです。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 月2回かかりつけ医に往診をしていただき、診察や指示を受けている。本人や家族の要望によっては、他病院(精神科、眼科、歯科、皮膚科等の専門病院)の受診も行っています。</p> <p>(外部評価) 現在、協力医をかかりつけ医にしている方は6名で、個々に月2回往診がある。他の方は、入居以前からのかかりつけ医を職員が支援して受診している。週1回、訪問看護ステーションの看護師の訪問があり、利用者の健康管理をしている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 訪問看護センターと契約しており、毎週水曜日に来所されています。個々の利用者とは面談や測定をして異常があれば、職員への指示や場合によってはかかりつけ医への連絡をして頂いています。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時には職員が立ち会い、家族に連絡して病院へ来て頂いている。Drからの病状説明や入院状況・退院予定等を伺い、2週間を目処に部屋の確保をしている。病院からの連絡にて必要物品を病院へ持って行ったりする事もあり、本人の入院中の様子を確認し状況を報告している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 終末期のケアを希望されているご家族については、家族と話し合いを行う事が出来ているが、終末期の話を出来ない利用者も多く残っている。また、職員の外部研修や勉強の必要もあり、看取りがスムーズに出来る様にしていきたい。</p> <p>(外部評価) 利用者の状態変化時等を機会に、ご家族と終末期のあり方について話し合っている。現在、看取り支援まで希望するご家族が2名ある。管理者は今後「看取り支援の研修に参加したい」と話しており、看取り支援の体制作りをすすめている。今後は、早い段階から終末期のあり方について意向を確認し、話し合いを行ってご家族の安心や希望に沿った支援に取り組んでほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時には本人の状態により緊急性がある場合もあり、職員の判断にて救急搬送を行っている。外部研修や勉強会等を積極的に受講してもらい、職員全員が実践力を身につけられる様にしていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練は年2回実施している。運営推進会議等で、災害時には地域の人への協力も得られる様にお願いをしている。津波時は、2階に避難誘導を行う事となっている。	
			(外部評価) 年2回の避難訓練の内、1回は消防署の協力を得て実施している。海が近い立地条件のため、火事以外に地震や津波を想定した訓練も行っている。津波発生時には、高台までは遠いため事業所の2階に避難することになっている。避難訓練には、利用者も参加して職員の誘導で出入り口まで避難している。運営推進会議時に、地域の方から「いざという時は、笛を鳴らして近隣の方に知らせはどうか」という提案があり、玄関に笛を準備していた。小学校で行う地域の自主防災訓練に職員が参加している。おむつや食料品を備蓄している。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人個人の性格や今までの生活を把握し、人格を尊重しながら声かけ、支援を行っている。	
			(外部評価) 居間や廊下等のモップ掛けや洗濯物を干したり畳んだりする方、朝・夕に階段で1階までゴミ袋を持って行く方、又、花の水やり等、個々が力を発揮したり、役割を持って生活できるよう支援している。調査訪問日の昼食後、利用者の方が歌が得意な他利用者に「歌を聞かせてほしい」とお願いすると、他利用者は得意な民謡を披露してくれるような場面があった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本人の希望や要望があれば、出来る限り希望や要望をかなえられる様に支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の個々のペースや気持ちを大切にする様にし、利用者の希望を聞きながら支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の服の好みを把握し、着替えをする時にお話をしたり、服の修復をしたりしてコミュニケーションを取っている。2か月に1回程度理容店に在所して頂き散髪を行っており、自分の好みの髪型を伝えられたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎月1~2回程度、普段のメニューとは違った別メニューを選んで作る様にしています。利用者が出来る事はして頂く様にしており、配膳や下膳等、手伝ってもらっています。	
			(外部評価) 食事は、業者から調理したものや野菜等が冷凍で届き、事業所で温めたり和えたりして盛り付けている。月1回は、業者の別メニューの中から利用者の希望を反映してメニューを選び、届いた食材で手作りしており、2月はちらし寿司を作った。食事中、職員は介助に専念し、後から食堂で利用者を見守りながら持参したお弁当を食べていた。食後は、歩ける方は各自で下膳する姿がみられた。毎食後、口腔ケアを支援している。重度の方にはスポンジブラシで支援している様子が見られた。管理者は「業者から決まった献立が届くことで栄養管理や健康管理ができる」と話していた。食事を楽しむことのできる支援という点から、利用者の力を活かす支援の工夫を話し合ってみてはどうだろうか。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食材は外注しており、栄養バランスも考慮している。水分不足にならない様、お茶やコーヒー、汁物等、飲んでいない時には声かけを行い、なるべく飲んで頂く様に支援を行っている。利用者の状況に応じてトロミをつけたり、介助を行ったりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きの声かけを行い、自分でできる人は自分で歯磨きをして頂いている。介助の必要な人は職員が介助を行うようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 昼間は、利用者個々の排泄パターンを把握するようにし、定期的にトイレ誘導い、トイレでの排尿・排便を支援しています。トイレ誘導が出来ない利用者も、定期的に声かけを行い、オムツを交換しています。</p> <p>(外部評価) 日中は、声かけや誘導を行い、ほとんどの方がトイレで排泄できるよう支援している。便器横の壁面に、L字型の手すりを取り付けてあった。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的に運動をしたり、散歩を行ったりしている。また、場合によっては、ヨーグルト等の乳製品を食事に付けたりしている。必要時には、腹部マッサージ等も行っている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入浴の声かけをして入浴をしてもらっているが、利用者の体調や気分によっては入浴拒否される事もあり、日を変えて入浴をしてもらっている事がある。入浴希望時や、失禁が多い時等は、シャワー入浴をして頂く事もあります。</p> <p>(外部評価) 個々に週2～3回入浴できるよう支援している。ご自分で着替えを準備して一人で入浴する方には、職員は脱衣場からそれとなく見守るようにしている。利用者の希望で入浴剤を入れている。職員と一緒に買い物に行き、購入した好みのシャンプー等を使う方もある。浴槽のまたぎが困難な利用者は、横になったままの姿勢でも入ることができる浴槽を利用して支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 昼夜逆転にならないよう、日中はホールで過ごしたり、散歩に誘ったりして過ごされています。夜間の見回りは就寝の妨げにならないよう静かに周り、時間も2、3時間ごとに行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 日々の投薬は職員が管理しており、往診や病院受診時等に薬が変更になった場合は、随時処方箋で確認している。また、実際に飲み忘れがないか等を確認し、誤薬がない様に確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の趣味や生活習慣に応じたものがあれば職員と一緒にして頂き、役割や楽しみを持って生活出来る様に支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候や時間帯を見ながら散歩をしたり、買い物に行ったりしている。また、図書館に行かれ、本を借りて読まれる利用者もおられる。 (外部評価) 気候の良い時期には、近くの公園や海岸まで散歩に出かけ、菊の咲く庭や野菜畑の様子を見たりしている。初詣は、鹿島神社等に出かけ、2月の愛媛マラソンは沿道で応援をした。文化の森公園の図書館へ本を借りに行くこともある。事業所の買い物に利用者を誘ったり、衣類等の個人の買い物希望は、衣料量販店等に付き添い支援している。	職員は「もっと一緒に散歩に行きたい」と話していた。事業所前や周辺をちょっと散歩して気分転換を図ったり、時には利用者の「行きたい所」「懐かしい場所」等に出かけてみてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 原則としてお金は家族に管理してもらっている。本人の希望があれば職員と一緒に買い物に行き、好きな物を買われたりして楽しまれています。金銭管理は領収書によって翌月、家族に請求している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人がダイヤル出来ない時には、職員が代わってダイヤルして、家族や相手が出たら本人に代わってお話をされています。葉書きや手紙も書ける利用者には書いてもらって出しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 日中は、ラジオやCD等の音楽を主として、見たいテレビ(時代劇、相撲、歌番組、他)番組があれば見られる。季節ごとに掲示物や飾り絵を変えている。また、行事によって七夕飾りやクリスマスツリーの飾り付け等を職員と一緒に作り、季節感が分る様に工夫している。	
			(外部評価) 玄関前には、パンジー等が咲くプランターを並べ、ベンチを置いている。食堂兼居間には食卓テーブルと壁際にソファを設置している。壁面には利用者の塗り絵作品を飾り、体験学習に来た中学生からの手紙を貼っていた。利用者は、自由に居室と行き来しており、食後は居室で横になる方や居間でテレビを見てくつろぐ方の様子が見られた。調査訪問中には、居間から利用者と職員の歌声が聞こえてきた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールでは気の合った利用者同士が会話されたり、レクリエーションをしたりして過ごされている。また、一緒に買い物に行かれたりされている。利用者によっては、歌番組等を見られたり、のど自慢を見られたり、時々カラオケをされたりしている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 過去に大切にされていた物とか、本人が気に入っている物とかを自室内に置かれたり、家族から本人の使い慣れた物とかを持って来て頂き、自室に置いて本人が居心地よく過ごせる様に工夫している。	
			(外部評価) ご自宅から仏壇やお位牌を持ち込んでいる方もある。娘さん達との写真や誕生日プレゼントのメッセージカードを飾っている居室もある。又、枕元に時計を置いている方や、カレンダーや温度計がある居室もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人が出来る事ややりたい事を活かして、自立した生活が送れる様工夫している。毎日の手伝いの中からもっと出来る事を増やして、さらに自立を目指した生活が送れるように支援を続けていきたい。	
			(外部評価)	